

都道府県番号	41
都道府県名	佐賀県

【 】

学校名及び規模

学校名	山内町立山内東小学校（犬走分校・舟原分校を含む）								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	2	2	0	14	23
児童数	36	40	58	52	48	55	0	289	

研究の概要

(1) 研究主題

学ぶ楽しさを味わい、主体的な学びのできる児童の育成
～個に応じる指導の工夫・改善～

(2) 研究主題設定の趣旨

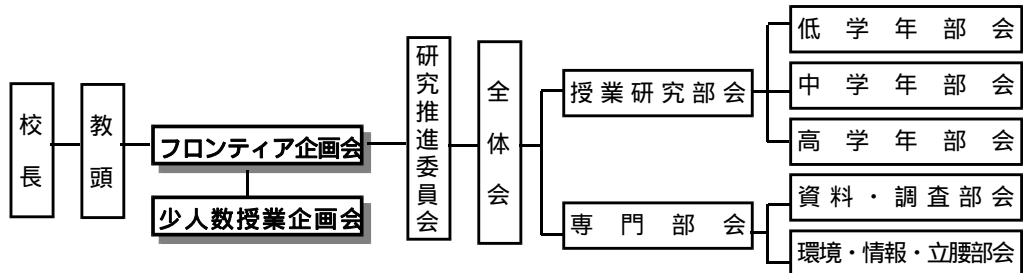
本校の教育目標を「自ら学び、自ら考える、心豊かなたくましい子どもを育てる」と定め、子ども一人一人に確かな学力を身につけさせるため「進んで学ぶ子どもの育成」を今年度の重点目標とした。そこで、社会の要請や本校教育目標の達成を目指して、研究教科である算数科において個に応じる指導方法や指導体制を工夫・改善し、学び方や基礎的・基本的な学習内容を確実に身につけさせることによって、学ぶ楽しさを味わわせていきたいと考えた。また、少人数授業等、個に応じる適切な指導を展開していく中で主体的な活動を促し、様々な学習場面の中で何が課題であるのかを自ら見だし、その解決方法を自ら考え、判断し、表現・処理していく子どもを育成することによって、「生きる力」へ導いていけるものと考え本主題を設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

算数科授業の全学年全時間で2T指導
年間をとおして算数科授業の全学年全時間を教師2名(担任と級外)による指導体制をつくり、少人数授業やTT授業を充実させた。

研究推進組織に「フロンティア企画会」及び「少人数授業企画会」の位置づけ



フロンティア企画会：研究構想・研究推進委員会議案書づくり
少人数授業企画会：少人数授業形態全体計画・少人数授業単元計画

(2) 研究の実際

児童の実態把握
学力、算数科学習意識調査、家庭学習・基本的生活習慣の調査実施

学習過程の定着
問題解決型学習過程の定着〔つかむ―見通す―熱中する―磨き合う―いかす〕

少人数授業に関する多様な指導形態の実施

- ・ 単元に入る前のレディネスにおいて個人差が少ない場合は「TT授業」を、個人差が大きい場合や補充・深化、発展学習においては「習熟度別少人数授業」を、児童の興味・関心に応じて深く探求させる場合は「興味・関心別少人数授業」を行ってきた。
- ・ 少人数授業は「学級内少人数授業」や学級を超え学年で取り組む「学年少人数授業」を行った。
- ・ 習熟度別少人数授業では、下位グループはできるだけ10名弱の人数とし、教師とともに学習を進め、学習の基礎・基本の確実な定着を図ることを目標とした。一方、上位グループは、基礎・基本の学習のあと個々の学習ペースに合わせて発展問題にも取り組ませるようにした。
- ・ 児童の個人差の把握については、新しい単元に入る前の前提テストや事前テストあるいは単元途中での学習内容の定着度をみるチェックテストで児童の実態を診断する。
- ・ 少人数のグループ編成は、児童や保護者の願いを優先し、教師の願いも伝えながら決めていく。

授業後の児童の自己評価の工夫

① 自分なりの見通しができましたか？	はい	だいたい	いいえ
② 自分力で答えが出せましたか？	はい	だいたい	いいえ
③ 話し合いに参画できましたか？	はい	だいたい	いいえ
④ 今日の学習はよくわかりましたか？	はい	だいたい	いいえ
⑤ 今日の学習は楽しかったですか？	はい	だいたい	いいえ

感想 今日の問題は「馬」の字で表したり、してとても楽しかった。今後やってみたいくらい、分かりやすかった。

【心の返りカード】

① 自分なりの見通しを立てましたか？	はい	だいたい	いいえ
② 自分力で解決できましたか？	はい	だいたい	いいえ
③ 進んで発表や質問をしようと思いましたか？	はい	だいたい	いいえ
④ 今日の勉強は、よくわかりましたか？	はい	だいたい	いいえ
⑤ 今日の勉強は、楽しかったですか？	はい	だいたい	いいえ

今日の勉強で、直径が測りにくいところは、計算でできるところが、よくわかりました。

スキル学習の工夫
数と計算領域のスキル学習を木・金曜日の朝の時間に実施している。

算数的活動の環境整備
学習内容の定着や算数のよさ、美しさ、不思議さに触れさせるため、校内各フロアーに「算数コーナー」を設置した。

(3) 研究の成果と課題

研究の成果
2C4T等の少人数授業に取り組むことによって、児童の学ぶ意欲が向上し問題解決力が高まった。(資料1)

(資料1) 本校教師の研究課題意識調査結果

[4:強く思う 3:やや思う 2:あまり思わない 1:思わない]

	H15.4 (平均)	H16.1 (平均)	差 (ポイント)
1. ノートに自分の考えがよくわかるように書いていない。	3.07	2.39	0.68
2. いく通りも方法で解決することができていない。	3.27	2.61	0.66
3. 友達の考えと自分の考えを比べて発表することができない。	3.27	2.78	0.49
4. 自分の考えを筋道立てて発表することができない。	3.40	2.94	0.46
5. 既習事項を使って自分の力で解決していこうとしない。	2.73	2.44	0.29
6. 興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組めない。	2.20	1.94	0.26
7. 図や表などを使って解決していこうとしない。	2.71	2.50	0.21
8. 具体的な操作活動を生かして解決することができていない。	2.14	2.06	0.09

少人数授業に取り組むことによって、「勉強がよく分かる」と感じている児童が増えてきた。(資料2)

(資料2) 算数の勉強は、よく分かりますか？

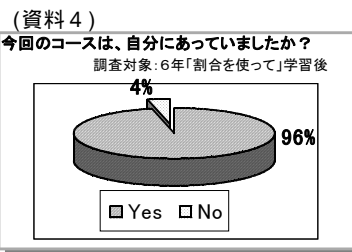
	3年生		5年生	
	[6月]	[1月]	[6月]	[1月]
よく分かることが多い	35%	39%	27%	32%
だいたい分かることが多い	55%	54%	60%	64%
分からない時がある	7%	7%	13%	4%
分からない時が多い	3%	0%	0%	0%

高学年になるにつれて少人数授業を好む傾向にあり、その理由として「発表や質問がしやすい」「集中できる」「自分のペースで学習がすすめられる」と答えている。(資料3)

(資料3) TT授業と少人数授業では、どちらが分かりやすいですか？

	3年生		5年生		6年生	
	[6月]	[1月]	[6月]	[1月]	[6月]	[1月]
TT授業	50%	28%	19%	9%	18%	2%
少人数授業	45%	54%	75%	85%	73%	81%
どちらともいえない	5%	18%	6%	6%	9%	17%

学年4コースの習熟度別少人数授業でも、自分の学習スタイルに合ったコースを選択できるようになった。(資料4)



- 教師側からみた取組の成果は、次のとおりである。
- ・少人数担当教師が日常的に各クラスに入ることにより学級が開かれ、職員がチームを組んで児童の学力向上を支援していこうという意識が向上するなど指導の協力体制ができあがってきた。
 - ・少人数授業は、児童一人一人の興味・関心や学習スタイルに合わせた指導となるため、「できる」「楽しい」「分かる」授業づくりができ、子どもも意欲的になり、成就感を味わわせることができる指導形態であると感じている。
 - ・少人数授業は、一人一人に目が行き届き児童の到達度や学習状況が把握しやすく、学習の状況によっては、より丁寧な指導ができたり、理解や学習の速い子どもには発展的な問題に取り組みせたりすることができる。また、つまずきにその場で迅速に対応できるなど個に応じたきめ細かな支援ができると感じている。
 - ・少人数授業を行うためには、児童の実態把握や指導計画を綿密に行うので、教師側からの児童理解も深まる。
 - ・教師の教材研究への意欲が向上し、教師間で切磋琢磨する姿勢が見られるようになり、指導力の向上につながってきているものと感じている。

今後の課題

- ・学習内容に応じた指導形態・指導方法の工夫・改善
- ・TTと少人数授業の効果の明確化
- ・個に応じる指導のための教材の開発

学習過程の改善・定着

- ・一人学びの時間の保障と自力解決への支援の在り方
- ・学習意欲を家庭学習や次時学習につなげる、本時終末の在り方の研究

補充指導の充実

- ・学力向上に向けた、家庭・地域社会との連携方策の検討及び実践
- ・フロンティアサポーターの効果的活用

(4) 研究成果の普及の方策

- 公開授業の開催(2回)
- | | | | |
|------|-----------------|-------------------|------|
| ・第1回 | 期日：11月28日(金) | 参観者：44名 | |
| | 内容：1年「ひきざん(2)」 | 事前到達度別少人数授業 | 3C4T |
| | 6年「割合を使って」 | 事前到達度別少人数授業 | 2C4T |
| ・第2回 | 期日：2月10日(火) | 参観者：58名 | |
| | 内容：2年「1000までの数」 | 習熟度別少人数授業 | 3C4T |
| | 3年「はこづくり」 | 興味・関心別少人数授業 | 2C4T |
| | 5年「円」 | TT授業・学級内習熟度別少人数授業 | |

年度当初のPTA総会でのフロンティア事業の趣旨説明及び年度末のPTA研修会でのフロンティア事業の成果報告

学校評議員会及びPTA役員会での学力向上の取組説明

- ・「学校だより」や「学力向上フロンティアだより」でのフロンティア事業の趣旨内容の説明、また、少人数授業やTT授業についての紙上紹介

保護者向け教育講演会『学力向上と家庭の役割』を開催予定

(5) その他

フロンティアサポーター(保護者)を立ち上げ、学校と連携して家庭学習時間の確保や生活スタイルの見直し等検討していく予定である。

~~~~~  
【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他

【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無

~~~~~  
【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】
学習のねらいによって、T・T指導、習熟度別少人数指導、興味・関心別少人数指導を適切に使い分けている。また、少人数指導においては、学級を分けたり、学年全体をいくつかに分けたり様々な工夫が見られる。